



・Tackle Guide
 全長1.8メートル前後のゲームロッドに両軸リールの組み合わせが人気。道糸はPE1~2号、仕掛けは胴つき2本ハリが基本。同宿特製は回転ビーズ使用でハリのチモトにケイムラパイプ付き。オモリ20~30号。エサはサバの切り身。持参となるがワカサギ、豆アジ、キビナゴなども効果的だ。

とやや深め。起伏もあり水深の変化があってもいかにカサゴのポイントらしい感じ。春先から狙っている釣り場だが依然好調が続いていると船長。確かに朝一のポイントに比べアタリは頻繁にあるようだ。ただし、ウネリで船が大きく揺られて、思うようにハリ掛かりしてこないのが難しい。それでも船中だけかしらが釣り上げているので、後はサ

私も良型の写真が撮れて一安心。しかしこれで終わらなかつた。これが呼び水になったのか、「左の三番できたよ」とか「右でもきた」とアナウンスが続く、私も右に左に大忙し。さらに良型が釣れるたびにお客さんからも呼びびがかり、息つく暇もないほど。その後もサイズは大中小様さまざまが好調そのもので画撮りもまさに順調。エサにワカサギや豆アジを

良型カサゴラッシュ！
 イズアップに期待したいところ。船の前方で大型が釣れるのを待っていると、右胴の間に陣取る3人組親娘のお母さんが良型を抜き上げた。キャビンの陰で見えにくかったが、画撮りのためさかさず駆け寄る。キャビンから顔を出す船長も、「26、27センチあるね」とご満悦だ。



▲この日は慣れた人で30尾前後

持参してきた常連さんたちもツボにハマって来たようで、ダブルで竿を曲げることもしばしば見受けられる。カサゴは食欲でエサと見ればなんでも食いついてくる悪食だが、それだけに特エサを探索するベテランも多い。竿頭になったベテランは、「今日はワカサギがいいみたい」と自画自賛。そういえば同宿のエサも通常のエサとは違い、サバの切り身をうつつすらと赤く染めてある。最初はサーモンの切り身かと思っただけだ。しかもアミノ酸などを加えてあるとのこと、船宿自慢の特エサであるらしい。このエサにはちょっと驚いたが、

仕掛けなども含め船長のカサゴ釣りに対するこだわりが垣間見えたような気がする。10時半近くに潮が止まりになったのでちょっと移動します」とアナウンス。といっても岸壁のすぐ横に動いただけだが、これがまた大正解。潮が止まれば大体どこに行っても食いは落ちるのだが、竿入れと同時にリールを巻く音が船中あちこちで聞こえてきた。

先ず3人組親娘の娘さんは連チャンでまさに入れ食い状態。仕掛けを落とすとすぐ竿先がたたかれ、カサゴの活性の高さが横で見ても分かるほど。沖釣り初挑戦のお父さんも良型をそろえ、圧巻のデビュー戦となった。上げ潮が効き出してからの後半も食いは順調。20センチ前後のやや小ぶりが目立ったが、時折顔を出す良型に船上では歓声が上がる。結局、元の場所に戻ることもなくそのまま午後1時の沖揚がりを迎えた。コンデイショ

が、すでに大半のお客さんが集まり船上で釣り談義をしながら出船を待ちわびている。さっそく私も船に乗り込み、恒例のお客さんチェック。目下好調に釣れているというところで22名とにぎやかであり、女性の方も5名いて華やかだ。定刻の7時半に河岸払い。新明秀幸船長から、「今日は本牧方面へ行きます」とアナウンスがあったが、海に出たら風とウネリがやや強くそして少し肌寒い。すぐに「風の影響が少ない手前の釣り場からスタートします」と釣り場変更のアナウンスが聞こえてきた。カサゴは岸壁や堤防など建造物周りのポイントも多く、風の影響を受けやすい工夫ができるのがありがたい。ベテラン船長だけにそこは心得ているようだ。20分ほど走って水深14メートルのポイントから釣り開始。アタリはポツポツあるようだが、なかなかハりに掛かってこない様子。それでも船長から、「左の一番前でちょい型のいいのが上がったよ」とアナウンスで呼ばれた。本日の第一号は煮つけに最適なサイズだったが、その後

は小型が中心になってしまった。アタリも余計にはないうで、これには船長も本意な様子。すぐに見切りをつけ本命場所へ移動することになった。10分ほど走ったところで本牧沖に到着。風とウネりはまだあるようだが、なんとか釣りはできそうと判断。すぐに開始の合図が出た。最初の釣り場とは変わってこちらは水深30メートル前後



▲良型は刺身で味わおう

●船宿information
 東京湾奥金沢八景
新健丸
 ☎090-9314-3791
 (詳細は巻末の情報欄参照)

新明秀幸船長

▶料金=ショートカサゴ乗合一人8000円(エサ、水付き) 女性・子供割引あり。貸し竿無料
 ▶備考=予約乗合。出船午前7時半。駐車場あり



▲東京湾のカサゴはベテランも初心者も楽しめる優良ターゲット

姿形は無骨なれど、食べれば飛び切りうまいと評判の東京湾のカサゴが、水温上昇とともに調子を上げてきた。早春のメバル釣りではうれしいゲスト、またはメバカサ釣りなんて二枚看板が多かったが、旬を迎えた夏場は「カサゴ釣り」と、メインターゲット

ットとして人気を集めるようになる。東京湾ではシーズンを通して顔を見せるポピュラーな根魚だが、夏場はプリプリの肉厚な身になって、おいしさも引き味も倍増、私も大好きな魚の一つだ。5月15日の日曜日にカサゴ

手軽で楽しいカサゴ釣り 脇役だなんて言わせない

●東京湾奥金沢八景発 ↓本牧沖

フナシマシマライター 竹川啓一 Keiji Takekawa

にぎわう船内
 京急線の金沢八景駅から平湯湾沿いを走るシーサイドラインに乗り込み次の野島公園駅で下車。改札を出て野島運河を渡ればすぐ(徒歩2、3分)とアクセスのよさも電車釣行派には魅力的だ。当日は、前日の土曜日が雨と風の影響で出船中止となったため、お客さんがそのまま日曜日にスライドして両船とも満員御礼のにぎわい。午前7時前に宿に到着した

を看板メニューの一つに掲げる東京湾奥金沢八景の新健丸へと出かけてきた。初めて何う船宿さんなのでチャットとHPをのぞいてみると、釣果はトップが50、60尾と安定している。別船のシロギス船ともども好調の様子で夏本番が楽しみといった感じだ。

は小型が中心になってしまった。アタリも余計にはないうで、これには船長も本意な様子。すぐに見切りをつけ本命場所へ移動することになった。10分ほど走ったところで本牧沖に到着。風とウネりはまだあるようだが、なんとか釣りはできそうと判断。すぐに開始の合図が出た。最初の釣り場とは変わってこちらは水深30メートル前後

が、すでに大半のお客さんが集まり船上で釣り談義をしながら出船を待ちわびている。さっそく私も船に乗り込み、恒例のお客さんチェック。目下好調に釣れているというところで22名とにぎやかであり、女性の方も5名いて華やかだ。定刻の7時半に河岸払い。新明秀幸船長から、「今日は本牧方面へ行きます」とアナウンスがあったが、海に出たら風とウネリがやや強くそして少し肌寒い。すぐに「風の影響が少ない手前の釣り場からスタートします」と釣り場変更のアナウンスが聞こえてきた。カサゴは岸壁や堤防など建造物周りのポイントも多く、風の影響を受けやすい工夫ができるのがありがたい。ベテラン船長だけにそこは心得ているようだ。20分ほど走って水深14メートルのポイントから釣り開始。アタリはポツポツあるようだが、なかなかハりに掛かってこない様子。それでも船長から、「左の一番前でちょい型のいいのが上がったよ」とアナウンスで呼ばれた。本日の第一号は煮つけに最適なサイズだったが、その後

知得! Tips and Tricks カサゴのコツ

カサゴは底に張り付いているので仕掛けを上げ過ぎないように。ハリ掛かりしたら何度も追いつめはしきらないこと。竿をあまりながらの巻き上げも要注意。薄皮一枚のハリ掛かりだと口切れてバレしてしまうことがある。

▲根掛かりに注意しながら釣っていくこう